

# つくる健康



京都医療生協

第209号 2023年(令和5年)10月15日  
発行所/ 京都医療生活協同組合  
京都市中京区聚楽廻東町2番地  
視力センタービル地階  
☎075(822)2286 FAX075(822)6133  
発行責任者/ 宮本和明

## コンタクトレンズ工場見学

## メニコン関工場

**工場長「品質管理の徹底は従業員教育です」**  
コンタクトレンズ (CL) の大手、株式会社メニコン。その関工場を8日23日、『つくる健康』機関紙担当者ら5人が見学しました。

自然環境の良い岐阜県関市新迫間に1984年設立。敷地面積は甲子園球場の10分の6ぐらいの2300㎡。建物面積は1500㎡です。製造の専門部隊と呼ばれているメニコンの主力工場。…足先から頭まで完全なクリーンウェアに着替えて、工場長の谷信二さんの案内で入りました。

ハードCLやソフトCLなど関工場でのCL総生産数は年間約900万枚・箱で世界最大級です。それを可能にしているのが、切削技術のMAMS生産ラインと超精密モールド製法のプレミオライン、そし

**あふれる清潔感。製造の難しさ…知った**  
て徹底した品質管理。ラインを担っているのが平均年齢32.4歳、女性比率55%の従業員さん174人です。彼らは加工にも検査にも、直径10mm前後のレンズ1枚1枚に神経を注いでいます。表面検査工程のエリアでは女性の従業員さんが10倍ルーペで目視し続けていました。「ほとんど手作りですね」と感想が漏れていました。

谷工場長は「1ヵ月に1日工場を非稼働にして従業員教



関工場 (メニコン提供)

**意外、手作業過程の多さ。利用者の目になるので**  
育をしています」と品質管理を維持する「裏付け」を強調していました。

参加者の感想は以下の通り。

「見学時は防塵を完全にし、係の方から丁寧な製造過程の説明を受けたが、意外だったのは(私の認識不足にもよるが)コンタクトレンズの種類によって、細かな手作業による過程が多いことであった。一つひとつが利用者の目になるので、おろそかに出来ない製造工程を作り上げているのを痛感した」

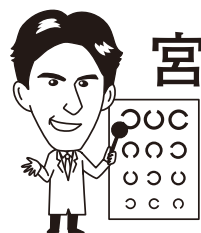
「緑豊かな環境に立地する



検査 (メニコン提供)

**安全最優先が原点。患者さんの目の健康を守る…**  
清潔感ある工場、というのが第一印象。細心の注意を払ってシステム化された細かな製造ラインなどを見学して、コンタクトレンズ製造の難しさや製品の重要性を改めて知った思いでした」

「この見学をどのように業務に結び付けるかが重要だと思いました。また、今回の見学で改めて感じたことは、目の安全を最優先に考えるという原点です。その原点を持ってふれずに新たな挑戦を果敢にしていける必要性も感じました。目の安全性を最優先にした京都医療生協(中野眼科、京都コンタクトレンズ)の外來・手術の医療とコンタクトレンズ供給。この眼科医療サービスが、全職員の理解と行動によって患者さんの目の健康を守る。…再認識しました」



## 宮本理事長の目も / ⑧

## 糖尿病と目の病気 その2 「網膜症以外の眼疾患」

前回、糖尿病による目の合併症として、糖尿病網膜症のお話をしました。糖尿病にはほかにも、発症する、または発症しやすい目の病気がありますので、今回はそのことについてお話ししたいと思います。

まずは白内障です。白内障は、水晶体が混濁している状態をいい、加齢とともに発症し視力低下を来します。老化現象といってもよい病気ですが、糖尿病では、糖尿病がない場合と比べて20年早く発症するといわれています。糖尿病で白内障が問題となるのは、早期に視力低下が起きること以外に、濁った水晶体では眼底が診察しに

くくなり、網膜症の評価が困難になったり、網膜のレーザー治療が中途半端になったりするからです。比較的若いうちに白内障手術をすることが多いですが、手術治療の効果は糖尿病がない場合と差はありません。

次に緑内障です。緑内障は、眼圧(目の硬さ)が高くなり、視神経がダメージを受けて視野(見える範囲)が狭くなる病気です。緑内障は、もともと40歳以上の20人に1人が発症する頻度の高い疾患ですが、糖尿病ではその発症頻度が1.5倍~2倍程度に上がるといわれています。ただこれは通常の緑内障の話で、糖尿病で本当に怖い緑内障は、血管新生緑内障です。糖尿病になって網膜の血管が

詰まると新生血管が生えてくることは、前回の紙面でお話ししました。この新生血管が、目の前の方の黒目の部分である虹彩にも出てくると、隅角という目の中を循環する水の出口を塞いでしまいます。そのために、水は出口を失って眼球の中に閉じこめられ、徐々に眼圧が上がって緑内障の状態になります。これを血管新生緑内障といい、治すのが非常に難しく、最終的に失明状態になる場合がほとんどです。このような事態にならないよう、適切な時期に、網膜症の適切な治療をしっかりしておくことが大切で、その第一は、血管の詰まった網膜に対するレーザー光凝固術です。

3つ目の眼疾患は、目を動かす

神経の麻痺です。これにより、両眼で物を見たときに像が2つに見える「複視」という症状が出ます。目には、目を動かす筋肉が6つ付いていて、動眼神経、滑車神経、外転神経という3つの神経の指令により目は動いています。糖尿病には神経障害という合併症があり、これによりこれらの神経が麻痺することで目の動きが悪くなり、複視が生じます。比較的予後は良く、自然に治ることが多いですが、回復には数か月かかります。

今回は、網膜症以外の目の病気についてお話ししましたが、いずれにしても、糖尿病と診断を受けたら、眼科を受診し、定期的に検診を受けることが重要です。網膜症が発症していれば、最低でも3か月に1回、発症していなくても半年から1年に1回程度は眼科の定期受診を心がけるようにしましょう。(宮本和明)

老眼鏡をかけたのは、はるか前。以来、日常ではつけたり外したりの毎日が続いています▼そして、この長年の月日での変化は、眼鏡をかける時間の長期化と、眼鏡度数の高度化です。最近では気が付けば老眼鏡のまま外に居たり、食事をしていないことも。今のところ庭や食事では必要はないのですが、つい外すのを失念してしまうのです▼その流れで先日、眼鏡のまま食事をしていて発見が。手元の炊きたてのご飯が一粒ひと粒、くつきりと光っています。「エー、ご飯はこんなだったの」。ぼんやり見ていたものがたまにはつきり見えただけです。が、自分的には大満足。そのままおいしくいただきました▼はつきり見える食事の良さを実感した中でふと思ったのは、年取ってぼんやり見過ごしている大事なことがあるかも。眼鏡に限らず物事をしっかりと見せてくれるものを大切にしなければ。自戒です。ところで十月は目の愛護月間。ものを見る目を大事にしたいですね。(松本忠之)



### 組合員交流集会 お話上木さん。テーマ健康

京都医療生協は「健康…会う、聞く、話す、食べる」と題する組合員交流集会を11月25日(土)、ホテルオークラ京都で開催します。

交流集会では、社団法人つなぎの健康教室主宰、上木紀介さんがお話をします。テーマは「ちょっとしたことを真剣に見直す。そのための健康。その準備…」。

交流集会の詳細は、同日10時30分から受付、11時から12時30分までお話と交流、その後13時30分までランチ(松花堂弁当)です。参加費は組合員1,000円(ランチ代含む)。



### 目の愛護デー行事に協賛

10月10日は目の愛護デー。毎年、眼科健診や目の大切さを呼びかける取組みが行われています。今年、京都では10月1日、京都駅八条口の龍谷大学響都ホールで京都府眼科医会などの共催による記念行事がありました。

### 業務改善委員会 分会と担当者決める

理事会の「業務改善委員会・電子カルテ導入委員会・ホテルオークラ京都強化委員会」の初会議が8月28日開かれました。会議では、委員長に須賀修司常任理事、副委員長に松本忠之常任理事が就くことを確認。

①業務改善/須賀(責任者)、松本(副責任者)、毛利雅彦理事、(事

務局)清水泰治専務理事②電子カルテ/村田四郎理事(責)、坂博子理事(副)、荻野宏子理事③オークラ強化/村田(責)、大槻靖理事(副)、川久保雄二郎常務理事

各分会の課題(業務改善の分会では組織図、就業規則)についても意見を出しあい、年度内に結果を出すことにしました。



9月11日  
本院で職員研修

### 職員14人が医療における コミュニケーション学ぶ

ナカノ眼科は職員研修を本院地階ホールで行いました。カリキュラムは、新入職員研修は「接遇」、経験のある職員向けのアドバンス研修は「コンタクトレンズ」と「接遇」。

### 大田副院長が硝子体 手術の研修 (8月25日)



今年の初夏、南ドイツの有名な温泉保養地、バーデンバーデンを訪ねる機会がありました。その折、同地で思いだしたのが本書で知った「バーデンバーデンの一夜(密約)」。

### 半藤 一利著 『昭和史の人間学』

物評を昭和の軍人、政治家に限り、編集したもの。永田を「卓抜な軍人たち陸軍篇」で取り上げ、後の2人の相反について派閥抗争を越え、政策上の根本的対立に原因を見ます。

歴史を学ぶことは、1つは過ちを繰り返さないことに意味が

### 大森元専務が出版 中島監督の映画人生を 俳優の似顔絵と エピソードで …興味深い筆致

当医療生協に勤務していた大森俊次氏(専務・常務理事を2016年~2020年に歴任)が7月に『中島貞夫監督 映画人生60年を語る』(写真)を出版した。大森氏は、こなれた文と優しいタッチの水彩画が得意である。

中島監督にインタビュー。映画会社と制作方針での対立や俳優とのエピソード等興味深い。戦後の日本映画の記録史の一部と言ったら言い過ぎだろうか。素敵なお本である。(須賀修司)

■中島貞夫・大森俊次著、かもがわ出版、A5判、272ページ、2,200円。



### 百まで生きよう会の 会員さんら夏井ライ ブで猛暑忘れる

ナカノ眼科ホテルオークラ京都診療所が入っているホテルオークラ京都の創業135周年記念「夏井いつき句会ライブ」に、百まで生きよう会の会員さんら12人が参加。感想を寄せて頂きました。

■加藤文子さん「特選に選ばれたら」  
祇園祭も終わった7月末、ホテルオークラ京都創業135周年記念企画で「夏井いつき句会ライブ」が開催され、医療生協から「百まで生きよう会」の会員全員を招待して頂いた。老舗ホテルでの美味しいランチを頂き、その後4階のホールに移動して句会ライブが始まった。

■中島永美子さん「プレバト楽しみ！」  
7月30日の中野眼科様の御厚意で夏井いつきさんの句会を知ってから2ヶ月ぐらい、その日が来るのを楽しみにしていました。句会は解りやすく、先生は可愛いらしくてテレビで「プレバト」を観るのが楽しみになりました。

■林立子さん「勉強になった」  
夏井いつきさんのライブに参加させていただいて良い勉強になりました。

■高尾ユリ子さん「人様の俳句は？」  
毎日やけるような暑い日が続きました。でも百までの会員皆元気で再会出来たこと此の上なく嬉しく思います。先日思いがけなく「夏井いつき句会ライブ」に招待いただき、これ又嬉しく全員嬉しく参加致しました。コロナ以来の人もあり200名近い人数と耳に聞き人様はどんな俳句を作られるのかと勉強にもなりました。三々五々嬉しく帰路につきました。此れからは中野眼科の発展と医療生協のご発展をお祈りいたします。令和5年8月(103歳)

・秋立ちて足音軽くなりけり



句会ライブ開始を待つ  
会場の参加者



ライブ前のランチでの  
百まで生きよう会の会員さんら